

姉妹・友好交流都市訪問&異文化体験

アメリカ班



アメリカ班は16名が7月21日から7月31日の11日間、サクラメントとサンフランシスコなどを訪問しました。



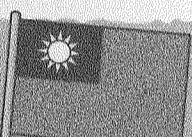
ドイツ班



ドイツ班は16名が7月17日から7月28日の12日間、フライブルクとスイスのレザンなどを訪問しました。



台湾班



台湾班は9名が7月24日から7月28日の5日間、台北と九份などを訪問しました。

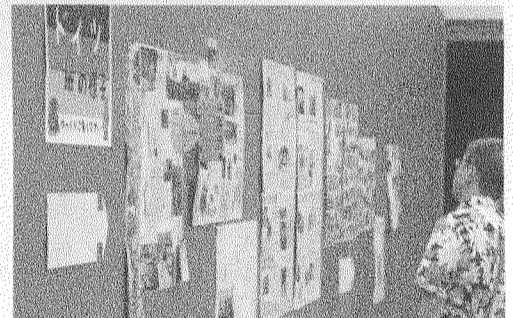
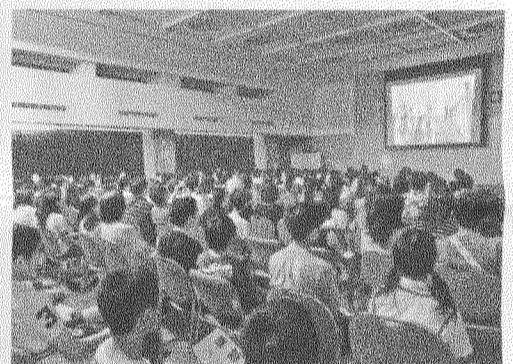


報告会

帰国後、それぞれの班が現地で学んだ知識や体験等を発表する「報告会」を行いました。

☆派遣事業全体スケジュール☆

6月21日(日)	事前研修会
6月28日(日)	事前研修会
7月 5日(日)	事前研修会
7月12日(日)	結団式・壮行会
	事前研修会
7月17日(金)	ドイツ班出発
7月21日(火)	アメリカ班出発
7月24日(金)	台湾班出発
7月28日(火)	ドイツ班帰国
	台湾班帰国
7月31日(金)	アメリカ班帰国
8月上旬~中旬	事後研修
8月22日(土)	報告会



派遣事業概要

(公財)松山国際交流協会では、毎年夏休み中に「まつやま中学生海外派遣」を実施しています。

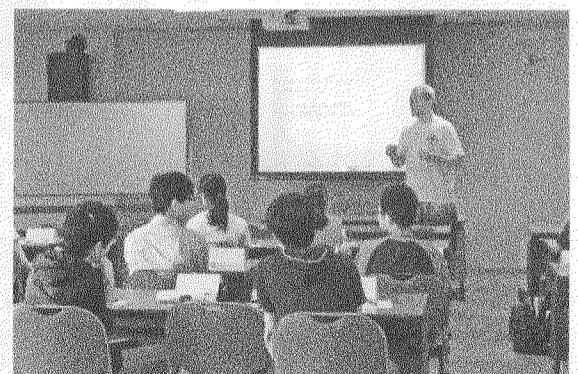
この派遣は、松山市の姉妹・友好交流都市での交流や体験学習、ホームステイなど、文化や言葉の違う人達との交流を通して、いろいろな価値観があることを学び、広い視野を持って物事を見ることが出来る国際性豊かな人材の育成を目的としています。

昨年度に「中学生チャレンジプロジェクト」(※1)へ登録し、1年を通じて国際交流活動に参加した中学生を対象に派遣生の募集を行いました。その中から選考された41名が、4回の事前研修の後、アメリカ班、ドイツ班、台湾班(※2)に分かれ派遣されました。この派遣を通して学んだこと、心に残ったことなどをレポートにまとめました。

※1「中学生チャレンジプロジェクト」については8ページをご覧ください。
 ※2今年度は、MERS コロナウイルスによる感染症拡大のため、韓国への派遣は中止し、派遣先を松山市と友好交流協定を締結している台湾・台北市へ変更しました。

事前研修

派遣先の文化やライフスタイルを理解するとともに、自分たちの国や街のことを再確認し、ホームステイ先でもきちんと紹介できるよう、出発までに4回の事前研修を行いました。



アメリカ班



CITY OF SACRAMENTO
サクラメント市

アメリカ班日程

7月21日(火)	松山発 サンフランシスコ着後、 サクラメントへ移動
7月22日(水)	サクラメント市内見学 ウェルカムパーティー
7月23日(木)	金発掘体験
7月24日(金)	カリフォルニア・ステート フェア見学
7月25日(土) ~26日(日)	ホームステイ
7月27日(月)	ペスカデロのハーレイ ファームズで農場体験
7月28日(火)	シリコンバレーへ移動 アメリカ地質調査所視察 インテル、NASA エイムズ 研究センター視察
7月29日(水)	LSIパークレー校で英語 研修と日本文化の紹介
7月30日(木)	サンフランシスコ発
7月31日(金)	松山着

仲間と浴衣とチョコパーティ

愛媛大学教育学部附属中学校 上田 真名実

私にとって今回は二度目の海外派遣となりました。それで、昨年は伝えられなかった自分の意見や考えを今年こそはこぼさず伝えようという目標を持って参加しました。そして英語力よりも伝えようとする努力が最も大事だと気づきました。



仲間と浴衣とチョコパーティの様子。左から上田真名実さん、松山立湯山中学校の生徒さん、サクラメント市の生徒さん、両親さん、面談をしながら一緒に学んでいた派遣生の仲間達みんなに感謝いたします。

充実した11日間を振り返って

松山市立湯山中学校 大串 璃衣菜

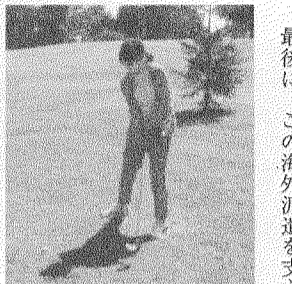
私は、今回の11日間の海外派遣を通して、みんな

な目標である「Don't be shy」を達成できたと思います。

最初は、「どう言ったらいいんだろう？」という不安があり、なかなか自主的にしゃべれませんでした。しかし、その思いはすぐに消えて、自分から話せるようになりました。

まず、大学寮では、エレベータに乗るとき、一緒に待っていた大学生に「Hello you!」(先にどうぞ)と言うことができました。また、大学の食堂でもバイリンガルの小学生とその友達と話す機会がありました。とても緊張したけれど、英語で楽しく話せてよかったです。

もう一つ、自分の目標である「挑戦」を達成できました。それを実感できたのは、人生初のホームステイでした。そこでは、ホストファミリーの人とゴルフやボウリングなどあまり経験したことのないことをしました。しかし、ホストファミリーの方が何よりも優しく教えてくれたので、いろんなことに楽しく挑戦することができました。



ホームステイはあつという間でしたが、貴重な経験ができた3日間でした。別際には、涙が溢れました。

おもしろい世界だ...

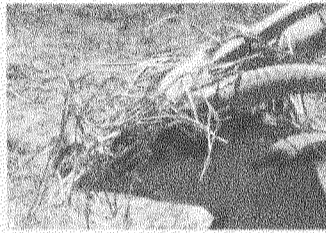
松山市立城西中学校 岡本 千奈

今回の海外派遣は私が今まで生きてきた中で一番身の濃い11日間となった。ホームステイを始め、金鉱発掘ツアーやインテルミュージアム、NASAの見学、カリフォルニアステートフェア...どの経験もとても貴重で忘れられないものだが、特に印象深く残っているのはハーレイ

ファームズでの農場見学だ。

広くて緑色の地面の上に柵が立ててあり、その横に歴史を感じる建物がある。そんな農場の第一印象は、「一言で言うとなかなかいいな」「ひつじのショー」の世界だった(羊は残念ながらいなかった)。ハーレイファームズでは雌のヤギを飼育しており、そのミルクを使ってチーズを作っているのだ。私もそのチーズを試食した。いつもは積極的にチーズを食べる方ではない私も「おいしい」と感じるほど濃厚で食べやすいものだった。この農場での思い出はもちろんチーズだけではない。動物たちとふれ合った時のこと、顔面草だらけのヤギを見つけた。あの顔は今でも思い出すたびに笑ってしまうようになる。

アメリカでは様々な人々、そして動物たちとの出会いを通してコミュニケーション力やその土地の文化や習慣などを学ぶことができた。その一つ一つの出会いに感謝し、この派遣で得た様々な事をたくさんの人に広めていきたい。



アメリカでは様々な人々、そして動物たちとの出会いを通してコミュニケーション力やその土地の文化や習慣などを学ぶことができた。その一つ一つの出会いに感謝し、この派遣で得た様々な事をたくさんの人に広めていきたい。

EMS

済美平成中等教育学校 鎌田 真由子

この派遣を通していろいろなことを学びました。時には怖い思いや、悔しい思いをしたこと、あつたけど、毎日が楽しいことばかりでした。そして、こんなにたくさんの方に出会えたのはいろいろな人との出会いがあったからだと思います。

私は小さい頃にハワイに行った経験があります。しかし、その頃は「Hello」「Good morning!」くらいしか話せませんでした。その時友達になった女の子とも何も話せず、少し挨拶を交わしたくらいでした。何も話せず別れたことをずっと悔んでいました。だから、今回はたくさんの方との出会いを大切にしようと思っていました。たつ

自由な国アメリカ!

松山市立三津浜中学校 河原 龍生

アメリカでの日々はあつという間に過ぎていきました。この11日間は僕にとって一生の経験となりました。初めてのアメリカという場所にとっても興奮しました。

僕はアメリカで大切なことを学びました。それは、言葉はなくてもジェスチャーで人に言い伝えられること。必死に伝えれば人は分かってくれます。僕もホームステイ先で英語が伝わらなかつた時に、身振り手振りのジェスチャーで分かってくることができました。

サクラメントでは、昔の街並みが残る「オールドサクラメント」に行きました。そこでは警察官が馬に乗ってパトロールしている姿が印象的でした。ゴールドラッシュ時代を体験できる金発掘ツアーでは小さな金がたくさんありました。アーデンフェア・ショッピングセンターはとっても広く、服や食品の店も充実していました。ホームステイでは、湖で泳いだり、ショッピングモールに行ったりとても充実した日々を過ごしました。なかでも特に楽しかったことは、「DISCOVERY KINGDOM」という遊園地に行ったことです。この遊園地はジェットコースターがたくさんあり、どれも怖かったです。

サンフランシスコの街は朝も夜も賑わっていてとても華やかですが、人も多くて危険だなとも思いました。そして、ストリートパフォーマンスをする人がたくさんいました。日本ではあまり見かけませんが、アメリカにはたくさんいてびっくりしました。あつという間の11日間でしたが、一日一日がとても充実していました。これから、アメリカで学んだ積極性を大切にして、普段の生活にも生かしていきたいです。

Thank you a lot

松山市立南中学校 周藤 ひなた

アメリカでの11日間は本当にあつという間でした。でも、その一日一日がとても新鮮で貴重な経験ができました。



「最高の経験、最高の仲間!」

松山市立湯山中学校 高須 夏穂

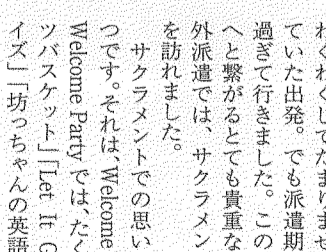
「自分で見えて、聞いて、学ぶ」これが、私の派遣中の目標でした。今回実際に海外に行ってみて、学んだことや感じたことがたくさんありました。その中でも一番感じたことは、「自分の英語で通じるんだ」ということです。これはなげないことだけれど、自分が今まで習った範囲で考えて、話した言葉が実際に通じたとき、「あつ、通じた!」と思うことが何回もありました。やっぱり話してみることが何回もあって、感じることもありました。

また、アメリカではとてもたくさんの方の思い出を作ることができました。私の行きかけたインターネットで、半導体がどのように作られるかや、インテルの歴史を知ることができました。オールドサクラメントで実際に街並みを見て、ショッピングをしたこと、ホストファミリーと過ごした皆さんの場所に行ったこともそうです。一番の思い出は、みんな11日間を過ごすことができたことです。みんな優しく、一緒に過ごせてとても楽しかったです。今までの一番の思い出です。

貴重な11日間

松山市立椿中学校 高橋 佑一朗

面接結果が届いた時、僕は飛び上がって喜びました。本当にアメリカへ行くんだと思うとわくわくしてたまりませんでした。心待ちにしていた出発。でも派遣期間は、あつという間に過ぎて行きました。この11日間は、自分の将来へと繋がるとも貴重な日々でした。今回の海外派遣では、サクラメントとサンフランシスコを訪れました。



サクラメントでの思い出は、大きく分けて二つです。それは「Welcome Party」と「ホームステイ」。

サクラメントでの思い出は、大きく分けて二つです。それは「Welcome Party」と「ホームステイ」。

サクラメントでの思い出は、大きく分けて二つです。それは「Welcome Party」と「ホームステイ」。



「話す」は、達成できて、飛行機に乗り合わせアメリカやタイの人とずっと話す事もできました。この最高でも充実した11日間を過ごした。この最高の財産として、英語をもっと頑張ってみよう。アメリカを訪れたいと思います。
「Thank you very much for good time。」

アメリカ派遣を通じて

済美平成中等教育学校 長井 亮也

九日かけて移動し、現地についたとき、とても寒く、期待がありながらも不安な気持ちがあった。まず大きな山場のウェルカムパーティーが始まる。ホストファミリーは、一番に会いに来てくれた。英語劇「坊っちゃん」では、みんな一致団結し、最高のものを仕上げる事ができた。カリフォルニアステートフェアでは、スケールの大きさに驚かされた。食べるもの、見るものすべてが大きかった。ホームステイでは、ミニコンサート、ブルバパーティーなど様々なことを体験させてもらった。通じない部分もあつたけれど、私と伝えようとする人とステイ先の両親もなんとか理解しようとしてくれた。「文化、言語は違ってても伝えようという気持ちがあれば伝わる」という、よく聞く言葉を初めてこのとき体感した。このホームステイは、私の夢への大きな一歩となったと思う。そんなホストファミリーと別れ、サンフランシスコではアメリカの進んだ技術に触れることができた。



今回のような派遣を体験できたのも保護者、現地の人、国際交流センターの人々など色々な人の支えがあったからだと思う。今回学んだ事を生活に生かして役立つ人間になることで恩返ししたい。最後に先生方、保護者、班のみんな、本当にありがとうございました。

11 days

新田青雲中等教育学校 中田 萌々

アメリカでの11日間、それは長いような短いような期間でした。一日一日がとても充実していたので、時間が経つのが早く感じられました。そんな海外派遣で私が学んだことは二つあります。

まず一つ目はなんでもやってみる事です。今回私は一人でのホームステイでした。私は英語が苦手な「Welcome party」のとき、ホストファミリーの話していることがほとんどわかりませんでした。だから一人きりでホームステイできるのかと不安でした。ホームステイのときは英語で会話をしなければいけません。私は勇気をだして、単語と単語をつなぎあわせて何とか話しようとして、単語と単語をつなぎあわせて何とか話しようとしてがんばりました。あるときはジェスチャーも使って伝えました。そうすると相手もきちんと聞いてくれて、伝わったときはとても嬉しかったです。やっとな後に後悔することは、何もやらないことを後悔するよりもずっといいと思いますが、今回本当にそんなんだと学びました。

二つ目は、協力しあう事です。例えばWelcome partyでは初めての試みとしてオリジナル劇をしました。シナリオの内容を話し合ったり英語に訳して、一生懸命、納得するまで練習しました。そのおかげで本番は、大成功を収めました。みんなで協力すれば、自分が元々持っている以上の力が出るのだと改めて学びました。様々な経験をしたアメリカ派遣。この貴重な体験を無駄にすることが出来たのは、引率の先生方、国際交流センターの方やガイダンス、ホストファミリー、アメリカの仲間、そして家族のおかげです。この貴重な体験を私は一生忘れません。ありがとうございました。



「やっとな、アメリカに行けるわ」MIGから封筒が届き、僕はそう叫びました。幸せのチケットを手にした僕は、四回の研修を終え、期待や不安を抱き、ようやくアメリカへ向けて日本を飛び立ちました。飛行機の中で想像が膨らみ、緊張と興奮で胸が張り裂けそうでした。そうして目にしたアメリカの景色は驚くべきものでした。特にスケールの違いには驚きました。広大な自然に巨大な建物、何もかもが日本とは比較になりませんでした。一日一日が驚きの連続で、いろいろな場所に行き、多くの体験をしました。

幸せの時間(★感謝★)

松山市立勝山中学校 日野 晃貴

アメリカでの11日間は本当に幸せな時間でした。目にするものはすべて目新しく、現地の人はみな親切でした。ホテルの売店で会計をする際、売店のおばちゃんがコインの使い方に困っている僕に、明るく優しく教えてくれました。最初こそ言語の違いに戸惑いを感じましたが、徐々に慣れていきました。僕が言葉の壁を乗り越えることができたのは、ホームステイ先での温かい家族にはじまり、多くの人たちのおかげだと思っています。ホームステイ先にはユーモアにあふれる

WONGさん、料理上手で優しいOTOさん、笑顔のかわいいKYLEくんがいて、温かく迎えてくれ、ほっとしました。WONGさんの趣味はサイクリングなので、自転車でサクラメント川周辺を走ったり、案内をしてくれたりしました。またバスケットボールの上手なOTOさん、KYLEくん和本場のバスケットボールを楽しむ姿が、3日間という楽しい時間をあつたという間に過ぎ、別れの時がやってきました。僕はとても寂しくなり、見送りに来てくれたFLORENCEさん一家の姿が見えなくなるまで手を振り続けました。



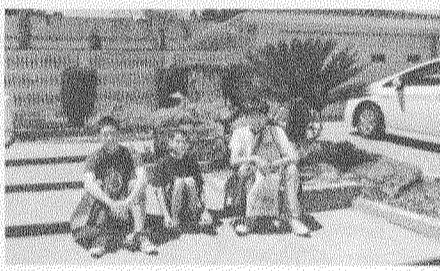
こうして僕の海外派遣の11日間は、あつたという間に過ぎましたが、本当に夢のような幸せな時間を過ごしました。この素敵な派遣に参加できた事を本当に感謝し、僕の最高の思い出にします。

たぐりんの篇

愛光中学校 藤原 峻介

およそ10時間のフライトを経て、アメリカにつきました。そのときに飛行機の窓から見た光景は、今でも鮮明に覚えています。山がないのです。そして自然が少なく、平野が茶色に見えるのです。日本は山が多く、また緑も豊かなので、それは見慣れない風景でした。そしてその後ハードロックカフェで初めてアメリカの料理を食べました。そこで出てきたのは、おっきなハンバーガーと太くて長いフライドポテトの山でした。ちょうどお腹が空いていたので、余裕で食べられるだろうと思いましたが、半分ほど食べたところで、お腹がいっぱいになりました。それでも残すのは失礼だと思い、完食しました。しかしそれで終わりではありません。サプライズでこれまた大きなパフェを出していただきました。状況が把握できずに混乱している中、お店の従業員、それとお店に来ていた大勢のお客さんたちが、「ハッピーバースデー」と言いました。その瞬間、誕生日を祝ってもらったんだとわかり、ちょっと感動しました。パフェを食べなくてはならないという現実が引き戻され、さっそく食べ始めました。食べながら何故アメリカ人は体が大きな人か、背の高い人が多いのか、実感しました。みんなの協力を得て、なんと完成しました。その日の夜はサラダしか食べられませんでした。

本当に耳を疑いました。日本ではこんな会話はお金持ちにしかありません。まあその人がお金持ちだったという可能性は、無きにしも非ずですが、とにかくアメリカ人は大胆ですね。アメリカという国は日本とは何もかも違います。そんな文化も全く違うものだとわかりました。それでアメリカ人は明るく大胆なんでしょう。アメリカの文化や風土、生活の様子はこの派遣で初めて知りました。まだまだ知らないことも多いと思います。井の中の蛙にならないためにも、もっともっと外国に行つてその国の文化に触れたいと思います。



愛媛県立松山西中等教育学校 松本 采子

「恥ずかしがらずに、失敗を恐れないで」。私達の最初の研修で言われた言葉です。私はホームステイで、その言葉の意味を実感しました。1日目の車の中、早速、何を言っているかわかるけれど何と返したらいいかわからず困ってしまいました。単語で伝えなくてはならないので、なかなか口を開けず、ホストマザーに「Be very quiet.」といわれ笑われてしまいました。事前にあれだけ失敗を恐れるなど言われていたのに、失敗を恐れてしまったのです。次の日に連れて行ってもらった動物園では、「今日こそたくさん話そう」という意気込みを胸に、家を出ました。単語ばかりのつたない英語でしたが、コミュニケーションをとる事が出来ました。また、ウェルカムパーティーと語学学校では英語での小断にも挑戦しました。最後のオチで笑ってしまったときは、心が通じたようでもううれしかったんです。

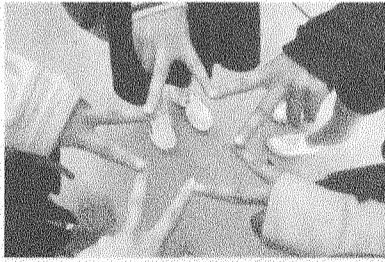
今回の派遣では、両親をはじめとする多くの人たちの支えに気がつくことができました。これから生活していく中で、このような形で経験を積ませていただくことは本当に少ないです。いということ、そして多くの方々への感謝の気持ちを忘れないように過ごしていきたいです。

分岐点となったアメリカ派遣

松山市立道後中学校 村岡 祐奈

4回の事前研修から始まり、現地研修11日間のアメリカ派遣。多くの経験をさせていただきました。その中で最も印象に残っているのは、「SUパークレー校」へ文化紹介を行ったことです。それまでの行程では体験が多く、あまり現地の方々とお話する機会がありませんでした。しかし、この語学学校では日本の文化紹介をするだけでなく、相手の方からも自分の国について教えてもらったり、また将来の大学留学についても教えていただき、海外での生活を身近に感じることができました。そして、現地の生徒たちとも話すことができて、とても嬉しく、また、充実した時間を過ごす事ができました。その他にも、大学寮での生活、現地のレストラン、鉄道博物館やオールドサクラメント、ウェルカムパーティーやホームステイ、インテルミニュージュやNASA、アメリカ地質調査所など、様々な場所を訪れ、貴重な体験をさせていただきました。

私自身、派遣を終え大きく変わった事があります。派遣前は何かとトライする時、少し恥ずかしかったり、不安があったりして、ためらうことがありましたが、今では失敗してもいいからとにかくやってみよう、そう思うことができるようになった事です。今回の派遣は私にとってこれからは続く人生の分岐点に必ずなると思います。最後になりますが、家族、先生など多くの支えがあったこと、また、ホストファミリーが家族のように接してくれたことに感謝したいと思います。



Speak aggressively

愛光中学校 矢野 和

「Speak aggressively(積極的に話す)」ということですが、ざっと黙っていても自分の伝えたいことが何も伝わらない、でも何か言えれば何か伝わる、と信じて僕はとことん話しました。分岐点となったのは、ジェスチャーです。現地の方は、一生懸命僕の言うことを聞いてくれたので、話しやすかったです。また、現地の方が言うジョークも、最初は意味が分からなかったのですが、だんだんと分かってきて、最後には自分から言えるようにもなりました。笑ってくれた時は、嬉しかったです。



アコーディオン教わり中
た。課題もみえました。今回、聞き取れなかったり、意味が分からなかったりしたこともありましたが、そういうときはちょっと悔しかったです。でも、分かりやすい単語で言い換えてくれたので理解できました。次からは、そういう気遣いをしてもらうことのないようにしたいです。

アメリカの思い出!!

愛媛大学教育学部附属中学校 吉澤 友乃

私にとって初の海外！今年の夏一番の思い出となった11日間！アメリカでたくさんのお友達と体験することができました。私は今回の派遣で、コミュニケーションをとることの楽しさを学びました。

まず、サンフランシスコ空港を出たときに、日本とは全く違うアメリカの壮大な空気に包まれとても感動しました。サクラメント市の思い出といえば、ホームステイです。はじめは一言声をかけるのにも戸惑ってました。しかし、一緒に朝食をつくったり、散歩をしたりしていく中で、自然に会話できるようになり、とても楽しくなりました。ホームステイでは、アメリカのそのまの暮らしを体験することができました。また、3日間という短い時間でしたが、ホストファミリーが家族のように接してくれた嬉しかったです。

もう一つ心に残ったことは、サンフランシスコの語学学校での日本文化の紹介です。私は、折り紙で兜と一緒に折ったのですが、生徒の皆さんがどれも折り紙に興味を持ち、楽しそうに折っているのを見て、日本の文化の素晴らしさを改めて実感しました。また、この学校では、出身地が全く違う人たちが集まっているので、みんなとても仲良く話しているのを見て、いろんな人とコミュニケーションをとることの楽しさを学びました。

私は、今回の派遣で、アメリカならではの貴重な体験をすることができました。アメリカならではの文化を学び、その大きさに驚き、日本の文化の良さを見つめなおすことができました。そして、たくさんのお友達とコミュニケーションをとったり行動することの楽しさを学びました。この派遣で学んだことをこれから私の人生に活かしたいと思います。



ドイツ班

フライブルク市

ドイツ班日程

7月17日(金)	松山発 大阪泊
7月18日(土)	関西空港発 フランクフルト着後、 フライブルクへ移動
7月19日(日)	ホームステイ
7月20日(月)	ゲーテギムナジウム校訪問 エコステーションで環境学習 BBQパーティー
7月21日(火)	市役所表敬訪問 フライブルク大学見学
7月22日(水)	サッカースタジアム視察 ドイツ語学習体験
7月23日(木)	フライブルク発 バーゼル、ベルン市内見学
7月24日(金)	国際連合ヨーロッパ本部見学 ベー地下塩鉱見学
7月25日(土)	切り絵細工体験 レ・ディアブルレ氷河視察
7月26日(日)	オリンピック博物館見学
7月27日(月)	ジュネーブ発
7月28日(火)	松山着



黒い森にて

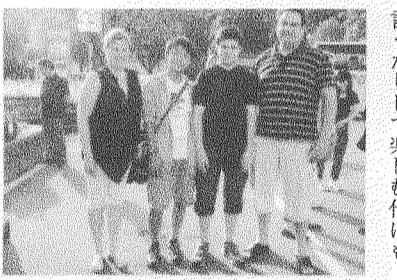
とを学びました。これから一生懸命勉強して、世界に通用する英語を話せるようになると共に、自分の思いを素直に表現できる、そういう豊かな

人になりたいと思います。この派遣に関わってくださった方々に感謝し、自分なりに今後の人生に生かしていきたいです。ありがとうございました。



ホストファミリーとの思い出

指定された部分を4、5人のグループで劇にするというものでした。劇の内容を考えるために、学校の外へ出たりしていたので、日本と違って自由だなと思いました。最後の朝、お別れを言おうとする涙が出てしまい、うまく伝えることができませんでした。けれど、ハグをしたときに私の思いは伝わったと思います。何事もチャレンジしてみると意外とうまくいくことが分かりました。このような機会を与えてくださった方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



ホストファミリーとお別れ

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「ドイツ」私は幼い頃からこの国を特別に思っていました。そしてこの海外派遣に決まると決まり、絶対後悔しないよう、積極的に挑戦し、成長して帰ろうと心に決めていました。学校訪問、市役所での田畑の、サッカースタジアム見学、スイスの観光など、どれも私の心を震わせましたが、中でも一番の思い出はホームステイです。ホストファミリーとはとても優しく私を迎えてくれました。はじめ、私のパートナーのSophieとは同じ部屋でも少し距離があり、何も話してない時がありました。その時、日本にいる家族や友達、応援してくださっている先生方の「頑張ってくださいね」という言葉をかけられました。勇気をふりしりSessaの隣へ行き「Can I sit here?」と笑顔で声をかけました。そこからお互いの好きな音楽、スポーツ、学校のことで、フライブルク、松山のことなど話げほとんど広がっていき、一つの勇気が自分の世界を変えてくれること、コミュニケーションの難しさと楽しさを感じました。会話は学校で習った英語や知っているドイツ語を駆使しました。時にはなかなか伝わらないこともありました。時に、絵をかいたり、ジェスチャーを使ったり、相手と心を通わせようという気持ちが大切だと感じました。1年生の時にチャレンジプロジェクトに参加して以来、たくさんの人との出会いがあり、それらは私を大きく成長させてくれました。全ての人にありがとうを言いたいです。この貴重な経験を生かして、これから国際交流に力を注いでいきます。

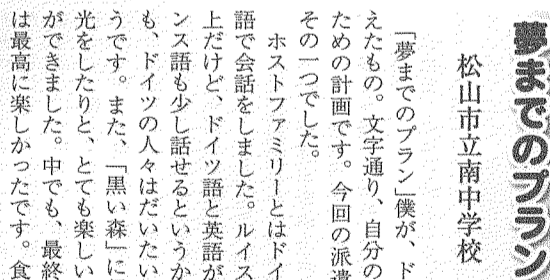
松山立道後中学校 高橋 怜

ヨロロッパに着くまでの2日間、私は憧れの地ヨーロッパで研修ができる期待と喜びで胸がいっぱいでした。フライブルクに着いたときはさすがに緊張しましたが、ホストファミリーの明るく素敵な笑顔を見て、心から安心したのを覚えています。人の笑顔の素晴らしさを実感した瞬間でした。

私は、ドイツを第二のふるさとだと心の底から思います。私は、英語が得意ではありません。ホストファミリーとの対面の時、不安でした。「松山のことを伝えたい」「そんな思いも言葉という壁に邪魔されてしまいました。それでも伝えよう」とすると、一生懸命聞いてくれて、理解しようとしてくれました。いつも私のことを気にしてくれていたママ、「ゆいなど笑顔でいっぱい話かけてくれたヤナ、クレイジー」とママとヤナに言われながらもいつも和ませてくれたニコ、あまり会えなかったけどまた遊びに来て」と言ってくれたパパ。短い間だったけど、本当にいい思い出になりました。最初は不安だったけど、最後は帰りたいという思いで一杯でした。言葉の壁を越えた瞬間は、とても感動し、伝えることの大切さを学ぶことができました。貴重な体験ができたことに感謝しています。日本と違う文化にふれることで、自分の世界観が広がりました。それもホストファミリーやドイツで出会った人のおかげです。ドイツ班のみんなやドイツの方々に出会えたのは奇跡です。この奇跡のおかげで私は変わることができました。出会えたことにも感謝

「あー、これはまずいかも」ドイツへ着き、ホストファミリーと一緒に、お世話になる家へ向かう車の中でホストマザーや娘のアナスタシアが体調は大丈夫？いいフライトだったかと聞いてくれたのに、私はYESやOKなどの簡単な単語でしか答えられなかったのです。これから5日間も一人でホームステイするのに大丈夫なのか、と不安になりました。ドイツではジャガイモとソーセージをよく食べると聞いていたけれど、ジャガイモをたくさん食べることはありませんでした。ドイツのソーセージは日本のものよりも太くて、食べごたえがありました。中には豆腐で作られたヘルシーなソーセージもありました。様々なカルチャーショックを受けましたが、ホストファミリーともなんとか話すことができました。不安も知らぬ間に消えて、とても楽しかったです。

この海外派遣で発見したことがあります。僕は英語が苦手でしたが、気持ちを込めて単語を連発すれば、何とか分かりました。これこそ、My languageだと思っています。それでは、最後になりましたが、MICのみならず、引率の先生方、Paulファミリー、Danke schön!



Paulと記念撮影

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「ドイツ」私は幼い頃からこの国を特別に思っていました。そしてこの海外派遣に決まると決まり、絶対後悔しないよう、積極的に挑戦し、成長して帰ろうと心に決めていました。学校訪問、市役所での田畑の、サッカースタジアム見学、スイスの観光など、どれも私の心を震わせましたが、中でも一番の思い出はホームステイです。ホストファミリーとはとても優しく私を迎えてくれました。はじめ、私のパートナーのSophieとは同じ部屋でも少し距離があり、何も話してない時がありました。その時、日本にいる家族や友達、応援してくださっている先生方の「頑張ってくださいね」という言葉をかけられました。勇気をふりしりSessaの隣へ行き「Can I sit here?」と笑顔で声をかけました。そこからお互いの好きな音楽、スポーツ、学校のことで、フライブルク、松山のことなど話げほとんど広がっていき、一つの勇気が自分の世界を変えてくれること、コミュニケーションの難しさと楽しさを感じました。会話は学校で習った英語や知っているドイツ語を駆使しました。時にはなかなか伝わらないこともありました。時に、絵をかいたり、ジェスチャーを使ったり、相手と心を通わせようという気持ちが大切だと感じました。1年生の時にチャレンジプロジェクトに参加して以来、たくさんの人との出会いがあり、それらは私を大きく成長させてくれました。全ての人にありがとうを言いたいです。この貴重な経験を生かして、これから国際交流に力を注いでいきます。

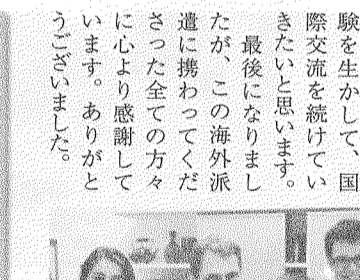
松山立道後中学校 高橋 怜

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。



ホストファミリー

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

松山立道後中学校 高橋 怜

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

「夢までのプラン」僕が、ドイツに行く前に考えたもの。文字通り、自分の将来の夢を叶えるための計画です。今回の派遣事業への参加は、その一つでした。

松山立道後中学校 高橋 怜

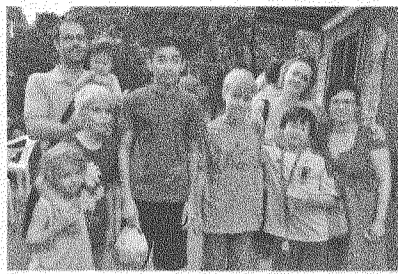
環境を調べるという目的を持ってドイツに行きました。実際にホームステイをしてみると、日本と異なる点が多く、苦労した場面がありました。まず、生活の違いです。日本ではお風呂は普通夜に入ります。しかし、ドイツでは朝にシャワーを浴びるそうです。ホームステイ1日目は言いたいことをうまく伝えられず、不安でした。しかし翌日からジェスチャーを使ってうまく伝えることができたので安心しました。

次に食事についてです。食事はパンが多く、特にブレックファストやクロワッサンがよく出ました。また、サラミやハム、チーズは一日のうち一回は必ず出ます。しかし、僕が一番驚いたのは牛乳です。日本とドイツの牛乳は説明できないほど全く違います。ドイツの牛乳は自然の味を感じ、あまり美味しなかったです。

最後に環境についてです。僕たちが訪れたフライブルク市はエコの町で、グリーンシティと呼ばれるかというくらい、太陽光発電などの再生可能エネルギーを利用したり、植木鉢を新聞紙で作ったりしています。

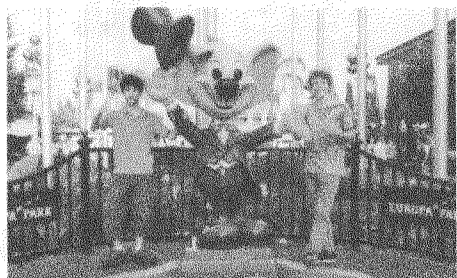
このようにたくさんさんの違う点を僕は学ぶことができました。本当に充実した12日間でした。

僕はこの派遣で一番楽しみにしていたことはホームステイでした。ホームステイ先に行く前から、どんな人たちなのか、どんな家なのか、自分の英語は通じるのだろうか、不安な気持ちと楽しみが混ざって、とても親切で会話の絶えない家族でとても安心しました。



ホストファミリーと黒い森へ

【インタビュー】
松山市立三津浜中学校 中尾 洸太



ヨーロッパパークに行ったときにフィリップと撮った写真

ミリーと出会って2日目は自由行動でした。ホストファミリーとヨーロッパパークという遊園地に行きました。そこで僕は外国の規模の大きさにとても驚きました。修学旅行で行った

「〇〇の乗り物が優しく思える瞬間がありました。僕はホストファミリーのお母さんからホームステイ中に言われた言葉が強く印象に残っています。その言葉は「どんなに違う国の人も、言葉が通じなくてもコミュニケーションをやめたらいけないよ。やめなければいいから、でも分かり合えるから。」この言葉を聞いてからその後の研修をよりいっそう楽しむことが出来ました。

日本に帰ってからこの言葉を心に刻み、世界で活躍できる人になれるように頑張ります。

長い時間をかけてフライブルクに着きました。とても綺麗な街並みが目に止まりました。今回の派遣では、言うまでもなく多くのことを学ばせていただきました。それは日本とヨーロッパの文化の大きな違いや、古くから残っている歴史的建造物についてなどです。また、コミュニケーションの上では言葉は通じなくても伝えたいという気持ちが相手にはしっかりと伝わるといことがよくわかりました。ときには、コミュニケーションをとることから目をそむけようとしてしまう事もありましたが、自分は大勢の中から選ばれ、ここに来ているのだと考え、何事にも諦めないでチャレンジしました。こうして海外派遣に参加できたのも協会の皆様、両親や親戚の方々のおかげだと思います。この派遣に協力していただいた方々には深く感謝したいと思います。そして現地でも僕を支えてくださった、先生や一緒に海外派遣に参加した皆さんにも感謝したいと思います。今回の派遣で僕は多くの事を学ばせていただきました。本当にありがとうございました。本当にありがとうございました。

松山の姉妹都市フライブルク
松山市立南第二中学校 鳴岡 蔵冬

初めてのホームステイに期待と不安をいだきながらドイツに到着しました。フライブルクの街並みはとても美しく物語の中にあったようでした。到着後すぐにホストファミリーの方と会い、温かく迎えてくださり一緒にバーベ



ホームステイ先のマイク君と二人で

Danke

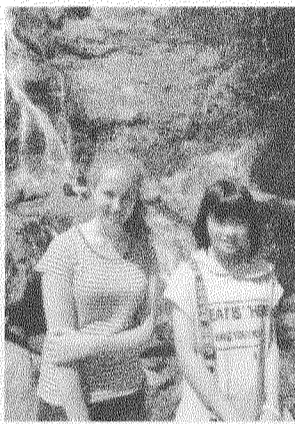
愛媛大学教育学部附属中学校 春田 彩希

初めてのホームステイに期待と不安をいだきながらドイツに到着しました。フライブルクの街並みはとても美しく物語の中にあったようでした。到着後すぐにホストファミリーの方と会い、温かく迎えてくださり一緒にバーベ

キューをしたり山に登ったり楽しい日々を過ごすことができました。しかし、困ったこともたくさんありました。学校のことで、友達のこと、家族のこと、松山のこと、いろいろ話したくて写真や松山のパンフレットを準備していましたが、私の語学力では言葉の壁が打破できず、伝えたいことが伝わらなかつたり、言われたことが分からなかつたりと、とても迷惑をかけてしまいました。そんな中で支えとなったのはホストファミリーの方の協力でした。携帯で日本語に翻訳して見せてくれたり、擬音語を使ってくれたりして、何度も分かるように説明してくれました。

この12日間で学んだ多くのことは、私の将来の夢の実現に大きな力をくれました。これから語学の勉強に力を入れ、今度は留学生としてドイツで勉強したいと思います。15歳の夏に素晴らしい経験をさせていただき、感謝の気持ちでいっぱい입니다。チャレンジプロジェクトで出会った仲間たち、先生方、国際交流センターの方々、本当にありがとうございました。

この未知の世界での12日間は私にとってかけがえのないものとなりました。特に印象深かったのはホームステイです。最初は期待の方が大きかった私ですが、いざホストファミリーとの面会となると、今までにないくらい緊張しました。そして、同い年なのに私たちがよりよくなるに身長が高くて、モデルさんのような大人びた雰囲気を出している現地の女の子たちに少し引け目を感じました。これから友だちのように仲良くなれるのか、きちんと意思表示ができるかなど、様々なことが頭の中を巡っていたこのときの感情は、今でも鮮明に覚えています。そんな私をホストファミリーは優しく受け入れてくれました。私がプレゼンした和柄の扇子に、無邪気な笑顔を浮かべて喜んでくれたり、パートナーのアダの姿を見て、同じ14歳だなぁと安心しました。



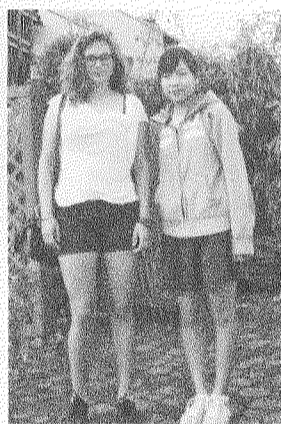
滝を見に行った時

未知

愛光中学校 平井 和実

この未知の世界での12日間は私にとってかけがえのないものとなりました。特に印象深かったのはホームステイです。最初は期待の方が大きかった私ですが、いざホストファミリーとの面会となると、今までにないくらい緊張しました。そして、同い年なのに私たちがよりよくなるに身長が高くて、モデルさんのような大人びた雰囲気を出している現地の女の子たちに少し引け目を感じました。これから友だちのように仲良くなれるのか、きちんと意思表示ができるかなど、様々なことが頭の中を巡っていたこのときの感情は、今でも鮮明に覚えています。そんな私をホストファミリーは優しく受け入れてくれました。私がプレゼンした和柄の扇子に、無邪気な笑顔を浮かべて喜んでくれたり、パートナーのアダの姿を見て、同じ14歳だなぁと安心しました。

無知であることを痛感するとともに、もっともつと世界を知りたいと思えました。そしてこのような素晴らしい時間を与えてくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。



アダと私

研修で感じた事と生まれた目標

松山市立久米中学校 藤本 一輝

私がドイツへの派遣で特にすごいと思ったことを二つ紹介します。

一つ目は、自転車の通行量の多さです。町を歩いていると、左を見ても右を見ても自転車、自転車、自転車という状況でした。環境大国と聞いていたものの、思わず口を開けてしまうほどの光景でした。車の方が便利なのになぜ自転車を多用するのか。その理由は、二酸化炭素の排出を防ぐためでした。ドイツの人達は環境問題について他人事とは思わずに、自分の事としてとらえ、動けることに驚きつつ、僕もそうなりたいと思いました。

二つ目は、片言の英語でも伝わるということ。僕は英語が得意ではありません。だからドイツに到着してすぐにみんなと離れ、ホストファミリーの家に一人で行くのがとても不安でした。しかし、ジェスチャーや、表情で相手が分かってくれたのはとても嬉しかったです。このことがあってから、笑顔を大事にしようと思えました。

この派遣を終えて、英語をペラペラとしゃべれるようになりたいという目標ができました。その理由は、ドイツだけでなく、いろいろな国を旅したいと思ったからです。この目標を立てる原点となったこの派遣に携わってくれた方々に感謝をし、目標に向かって日々頑張りたいと思います。

松山市立拓南中学校 山内 孝仁

フラックフルト空港からフライブルクへのバ



お別れのときの写真

念願のドイツ派遣に選ばれ、「おめでとう。良かったな」と言われたとき「ありがとう。」と心から親に感謝した。事前研修でドイツの事を詳しく知ることができ、研修を企画して頂いた職員の方々にも感謝しています。ありがとうございました。

初めての海外で12時間のフライトはとても長かったが、念願のドイツへ行くドキドキ感が強かった。「ワクワクした」気持ちの良い夏の日差しが日本の高温多湿の気候とドイツの違いを肌で感じさせてくれた。ホストファミリーとの会話は知らない単語が出てきたり、自分の気持ちをうまく伝えられず大苦戦し、「一瞬日本に帰りたい」と思うこともあったが、「交剣知愛」の精神で行こうと決めた。最初の頃は、一日がとても長く感じ、友達と日本語を話せることにとても喜びを感じていたが、日が経つにつれ、英語で話すこと、聞くことが楽しくなってきた。互いに共通語の英語を話すことで近づけることができ、世界を身近に感じつつ、実力不足を思い知らされた。五感をフル活用しながら

移動でドイツの高速道路であるアウトバーンを走っていた時に、日本ではありえない猛スピードでドイツ車が走っているのを見て「ああ、ドイツにきているんだ。」と強く感じました。

ホストファミリーとの生活も最初はすごく緊張しましたが、とても優しい方達で歓迎してくれました。すぐに緊張もほぐれました。日本から持って行ったお土産も喜んでくれたのでよかったです。ホストファミリーには、ブルルやスーパーマーケット、カフェやサイクリングなどに連れて行ってもらい、食事もおいしかったので楽しく生活出来ました。他にも、滞在中はホストファミリーの子と一緒に学校に行ったり、フライブルク大学やサッカースタジアムを見学に行きました。また、ドイツ語学校でドイツ語を学びましたが、とても難しかったです。

僕は車がとても好きなので、ホームステイ最終日の前夜、ホストファミリーの方にメルセデスベンツのショールームへ連れて行ってもらいました。閉店時間にも関わらず開けていただき、しかも新車のカタログまでもらえた事にはとても感動しました。

ホストファミリーとお別れはとても悲しかったです。僕は将来ドイツに行つて再会したいと思っています。次に会う時にはドイツ語を勉強してもっとコミュニケーションを取れるようにしたいです。

交剣知愛の精神でがんばる
新田青雲中等教育学校 吉田 龍生

念願のドイツ派遣に選ばれ、「おめでとう。良かったな」と言われたとき「ありがとう。」と心から親に感謝した。事前研修でドイツの事を詳しく知ることができ、研修を企画して頂いた職員の方々にも感謝しています。ありがとうございました。

初めての海外で12時間のフライトはとても長かったが、念願のドイツへ行くドキドキ感が強かった。「ワクワクした」気持ちの良い夏の日差しが日本の高温多湿の気候とドイツの違いを肌で感じさせてくれた。ホストファミリーとの会話は知らない単語が出てきたり、自分の気持ちをうまく伝えられず大苦戦し、「一瞬日本に帰りたい」と思うこともあったが、「交剣知愛」の精神で行こうと決めた。最初の頃は、一日がとても長く感じ、友達と日本語を話せることにとても喜びを感じていたが、日が経つにつれ、英語で話すこと、聞くことが楽しくなってきた。互いに共通語の英語を話すことで近づけることができ、世界を身近に感じつつ、実力不足を思い知らされた。五感をフル活用しながら



ホストファミリーの子とカフェに行った時

体験したドイツ派遣はとても有意義な時間であった。帰国後、その思いを親に伝え、またドイツに行きたいという夢ができた。カナダ人の先生との英会話にも少し楽しみを感じようになり、進歩したと思う。色々な事を知り、お互いに理解しあい、人間的な向上を図ること、これからの自分たちに必要な事だと感じた派遣だった。



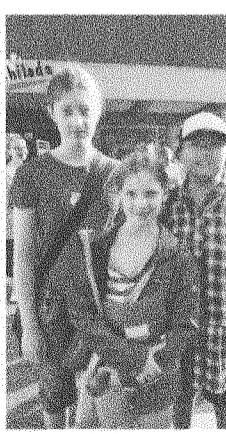
ドイツの学校

ドイツで学べた14歳の夏休み

愛媛大学教育学部附属中学校 吉村 樹季

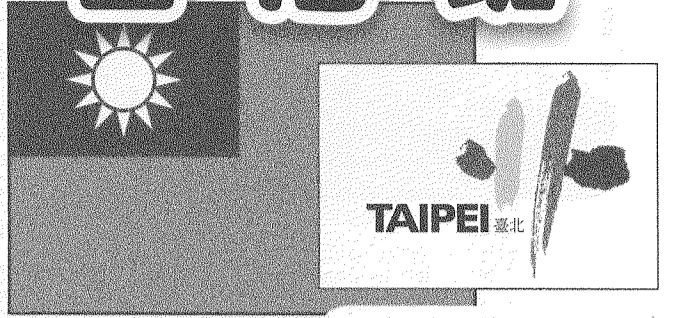
台風のため出発が危ぶまれ、不安と共に始まった海外派遣。飛行機に乗り、安心したのも束の間、ドイツに近づくと、新たな不安が私の頭の中をよぎりました。行く前はドキドキワクワクの期待感ばかりが頭の中を埋め尽くし「不安」という文字は無に等しい状態でした。しかし、ドイツに着いたという現状を受け入れたとき、私の頭の中は真っ白になりました。周りを見渡すと英語とドイツ語しか無く、話す言語もそれと同様だったため、困りはてていました。そんな私を助けてくれたのはホストファミリーでした。わかりやすく、ゆっくりと話してくれたので安心しました。私は消極的で積極的には動こうとしない性格。しかし、ホームステイでは自分の意思を伝えることは重要となり、消極的なままではいけません。この派遣は消極的な私を少しも変えるきっかけとなったと思います。Aidaが日本へ来るときには、日本・愛媛・松山のことをしっかり伝えていきたいです。

とても早かったと感じる派遣期間でしたが、たくさんの方から学べたと思います。出発式で言ったように、この派遣で学んだことをこれから生活に活かしていきたいです。「Kein Erfolg ohne Anstrengung - 努力なしに成功はない」と私は思ったので、これからは努力を怠らず頑張りたいです。最後に……派遣に関わってくれた方々に「Thank you! Dankel! Merci!」そしてありがとうございました。



お別れのときの写真

台湾班



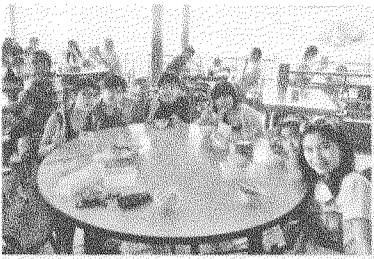
台北市

台湾での出会いを大切に

松山市立西中学校 麻生 亜香

私にとって今回の派遣は、初めての海外渡航でもあり、緊張と不安でいっぱいでした。5日間を通して、一番に残っていることはホームビジットでの交流です。私が訪問した家族は、両親、中3のジョイ、中2のレイ、小5のアポポの5人家族です。ジョイは男の子で、最初は男の子が来る事に抵抗を感じましたが、私達にはもちろんのこと、妹達に対しても本当に優しく、とても気遣いのできる姿を見て、すぐに馴染むことができました。家族みんなが会った瞬間から笑顔で、とても親切にして頂きました。また、動物園に連れて行ってもらう嬉しかったです。

翌日は、台北の学校を訪問しました。迎えてくれた時に、楽器を演奏してくれていたのが印象に残っています。その後の生徒たちとの交流では、英語を使いながらも皆さんの会話をしました。言語の違い、十分な会話にならなくても、気持ちを含めて積極的に言葉に出せばコミュニケーションもとれ、仲良くなることができました。この経験は私にとって貴重なものでした。



陳一家との交流

この時に仲良くなった、ひとつ年上の女の子のサマーとは、日本に帰ってきてからもメールや電話で会話をしています。これから松山のことを紹介したり、台湾のことを聞いたりしたいです。どちらも一日という短い時間の交流でしたが、思いやりのある素晴らしい家族、楽しすぎる学校の生徒たちに出会えたことに感謝しています。

台湾班日程

7月24日(金)	松山発 台北着
7月25日(土)	台北市内研修(中正記念堂、中烈祠) 九份、十分見学
7月26日(日)	ホームビジット
7月27日(月)	介壽國民中學校で生徒と交流 台北市内研修(龍山寺、故宮博物院、國父記念館)
7月28日(火)	台北発 松山着

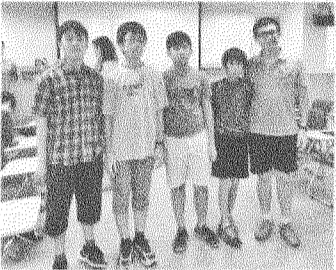
とは、私の一生の宝物になりました。これからこの出会いを大切にしていきたいです。

初めての海外へ台湾へ

愛光中学校 有澤 慎太郎

初めて行った日本以外の国、それが台湾でした。ホストファミリーや店員さんに英語で話しかけた、何とか会話になったのがとてもうれしかったです。また、十分の天燈を空に上げる体験中は、墨が手についてしまったので、手を洗える場所を英語で聞きました。しかし英語が通じなかったため、知っている中国語の単語とジェスチャーを用いて頑張っていました。伝えようとしたら通じました。ジェスチャーと相手に伝えようとする意志があれば、相手も分かってくれるという体験ができ、自分の中でもとても大きな発見と成長でした。

この派遣では、台湾の家族と過ごす貴重な時間を大切にしたいです。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。また、ホストファミリーの皆さんと過ごす時間も、とても貴重な経験です。台湾の美しい風景や美味しい食べ物も、自分自身も楽しむことができます。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。



ホストファミリーとの出会い

この派遣では、台湾の家族と過ごす貴重な時間を大切にしたいです。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。また、ホストファミリーの皆さんと過ごす時間も、とても貴重な経験です。台湾の美しい風景や美味しい食べ物も、自分自身も楽しむことができます。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。

台湾での思い出

松山市立余土中学校 植手 竜生

僕は最初は言葉が通じない、ホームビジットで仲良くしてくれるかなどいろいろな不安がありました。しかし、今ではすべてが思い出となり、とても貴重な経験です。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。また、ホストファミリーの皆さんと過ごす時間も、とても貴重な経験です。台湾の美しい風景や美味しい食べ物も、自分自身も楽しむことができます。台湾の文化や生活習慣、言葉の違いなど、自分自身も学ぶ機会がたくさんあります。

この学校のオーケストラは台湾ではとても有名だと聞いていましたが、予想を上回る演奏でした。次に僕達が松山や日本のアニメの紹介をしました。画面にアニメの画像が出たとき「おー」とも大きな反応でした。次は茶話会でした。用意されたお菓子はポテトチップスやスコーンにそっくりでした。これを食べながらアニメの話をしました。最後にみんなでボールを二つ使って爆弾ゲームのようなことをしました。台湾では音楽が止まったときにボールを持っていった人が円から出て、最後まで残った人以外が罰ゲームをするというルールでした。僕は負けてしまったので罰ゲームをしました。とても面白かったです。台北の中学生との交流はとても楽しく、貴重な経験になりました。



台北市の中学校との交流

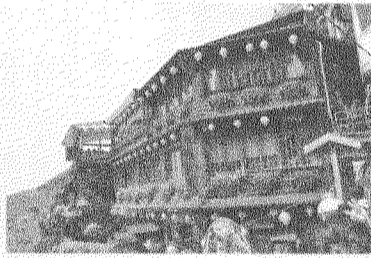
台湾での思い出

松山市立南第二中学校 宇都宮 有

台湾で過ごした5日間、私はたくさん良い経験ができました。日本と違った文化に触れることができ、忘れられない思い出ができました。その中でも、心に残ったことが三つあります。一つ目は点心料理などを含む料理がとても美味しかったことです。中でも北京ダックはとても印象的でした。毎回デザートにスイカがなかったので、黄色いスイカもありました。二つ目は九份の街並みを散策したことです。

千と千尋の神隠しで有名な九份ですが、自由時間の時に一番有名な老舗茶芸館に行ってお茶とお菓子をいただきました。外の景色がよく見えて南国のような所でした。茶芸館の裏に行くと猫がたくさんいたというところも印象的でした。三つ目は何となくホームビジットです。これは一番楽しみにしていました。温かな笑顔で歓迎してくださって嬉しかったです。彼らの英語がとても流暢で、勉強不足を痛感したので、もっと勉強を頑張ろうと改めて思いました。でも、言葉が通じなくても様々な工夫をして思いを伝えることができました。例えばジェスチャーを使ったり、紙に書いたり、積極的に行動をするということなど、たくさんの方法があることも知りました。自分が伝えたいと思えば必ず伝わります。伝えようとする心が大切だと分かりました。ホストファミリーとの出会いに感謝して、これから交流を続けたいです。

台湾に初めて行くことができて私はとても幸せな者だと思っています。私たちの海外派遣には多くの人が関わっていて、そのみなさんのおかげでとても良い経験ができました。そのことに感謝してこれから生活に生かしていきたいです。



九份の老舗茶芸店

台湾の人の温かさ

愛媛大学教育学部附属中学校 清水 杏実

私は派遣の前日まで不安を抱えていました。自分の気持ちや感じたことを上手に言葉にして伝えられるのか、積極的にコミュニケーションを図ることができるのか、心配なことばかりでした。当日、飛行機に乗り、台湾の空港に到着すると、不安は驚くほど一気に消え、期待が変わりました。見るもの、体験すること全てが新鮮で貴重な体験となりました。

一番心に残っていることはホームビジットです。初めは、どんな家族なんだろう、松山市や自分たちのことを伝えることができるのだろうかというマイナスイメージを抱えていたのですが、対面会場に行くと、温かく迎えていただきとても嬉しかったです。ホームビジットの家族と初めて会話して驚いたことは、とにかく英語が上手だということです。最初は緊張して上手に話さずでしたが、徐々に話しかけてくれたので自分からどんどん話そうという意欲が湧いてきました。一日ホームビジットの家族と過ごす貴重な時間を大切にしたいです。

ジットの家族と過ごしてきて、台湾の人の温かさや優しさを感じました。さらに、英語力を向上させ、もっと楽しく会話が続くように頑張ろうという新しい目標が見つかりました。最後に、台湾班のみんな、引率の先生方、家族、今回の派遣を支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちを一杯です。この派遣での思い出は一生の宝物です。本当にありがとうございました。ごさいます。



台北市動物園 Taipei Zoo

台湾での思い出

愛光中学校 松坂 悠成

関西国際空港から空路3時間弱で到着した桃園国際空港。まずそこで感じたのは、台湾も漢字文化の国だということです。台湾語でもあったり、意味が掴めたので楽しかったです。台北は都会的だという印象を受けました。一つ一つは古い建物でも、それらが集まり一つの街並みとなっているのが綺麗でした。この派遣で一番楽しかったのはホームビジットです。日本人も台湾人も英語をしゃべれる人の割合は同じくらいと聞いていたのですが、僕を迎えてくれたホストファミリーは英語がとても上手で、僕たちが分からない様子だと、丁寧に説明してくれて助かりました。最初は海水浴へ連れて行ってくれました。台湾の海はきれいで、みんなで遊び盛り上がりました。昼食は金山にある商店街で食べました。そのお店で有名な鴨肉がおいしかったです。次に、朱銘美術館に行きました。ほとんどが屋外展示だったので、広く気持ちが良かったです。ホテルに戻り別れるときは感謝の気持ちでいっぱいでした。

この派遣では、初めて会った人と打ち解けられるようになり、コミュニケーションが少し自信ができました。これからも国際交流活動に積極的に参加したいと思います。最後に、韓国から急遽行きたる先を変更したにも関わらず僕たちを台湾へ送り出した方々、本当にありがとうございました。



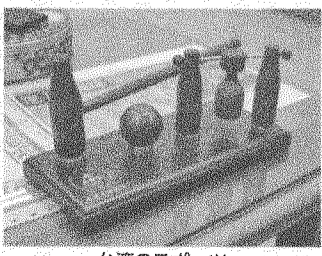
朱銘美術館にて

I LOVE TAIWAN!

松山市立道後中学校 三好 孝奈

4泊5日の台湾派遣、正直なところ不安でいっぱいでした。中国(台湾)語はもちろん、私は英語が苦手です。ホームビジットの際はどうしようかと悩んでいました。1日目は、松山空港を出発し、七時間後に台北空港に到着し、ホテルまでバス移動。夕食は台湾料理でした。美味しかったです。2日目は、衛兵交代を見学し、台北101ビルで昼食をとりました。『千と千尋の神隠し』の舞台と呼ばれる九份と、十分を散策しました。夕食は広東料理で本場のタピオカが出てきましたが、あまり好きな味ではありませんでした。3日目は、ホームビジット先で木球(Woodball)をしたり、美術館に行ったり、買い物をして、とても楽しい一日となりました。4日目は、中学校で生徒と交流した後、龍山寺に行きました。故宮博物院では、たくさん作品を見ることができました。予定にはなかったのですが、買い物を楽しむことができました。5日目は、台北空港を出発し、10時間後に松山空港に到着。学校の先生が迎えに来てくださいました。

派遣を通して私は、日本と台湾の繋がりに興味をもちました。これから色々勉強していきたいです。この5日間、体調を崩す事もなく存分に台湾を楽しむ事ができて、いろいろな方に感謝しています。



台湾のスポーツ

ホストファミリーの思い出

新田青雲中等教育学校 山口 慎太郎

今回の派遣で、台湾の家族と過ごしたホームビジットが最も印象に残っています。事前研修で、自分のことを英語で話せるように準備していたので、移動の間も会話をすることができ、楽しく過ごしました。松山から持ってきたお土産を渡すと、すごく喜んでくださったので、ホッとしました。ホストファミリーの方とかき水を食べました。自分はマンゴーのかき水をいただきましたが、お母さんはコーンがかき水を食べていました。台湾で食べたかき水はどれもおいしかったです。かき水を飲むのが国による食べ物の違いを感じることができました。また、事前研修で台湾の留学生の方からお聞きした日本のアニメショップに連れて行っても

らえました。ホストファミリーに、お店に行きたいという自分の思いを英語で伝え、実際に行くことができ、すごく嬉しかったです。お父さんが所属しているソフトボールチームの試合にも連れて行ってもらいました。チームメイトの方や僕たちより小さい子どもたちが、みんなとてもフレンドリーに接してくれたのでよい思い出になりました。

今回の派遣を通して、言葉の大切さ・コミュニケーションをとることの大切さを学びました。今回の経験は今後の生活に生かしていきたいです。



陳さんああああ

「これからへの挑戦」

「言葉が通じるだろうか」「ホームビジットでは、上手にコミュニケーションがとれるだろうか」と台湾へ出発するまで、僕は不安に思っていました。しかし、事前研修を重ね、出発日が近づくにつれて、どのような出会いがあり、どのような世界が待っているのだろうかというワクワクした気持ちになりました。

台湾で過ごした5日間は、いろいろな発見がありました。その一つは、英語で上手に話すことができなかったとしても、ジェスチャーを交えて一生懸命に表現しようとする、コミュニケーションがとれるということでした。ホームビジットでは、事前学習で学んだ英語やジェスチャーを交えて積極的に話しかけることを心掛け、ホストファミリーと楽しい時間を過ごすことができました。この経験から言葉の通じはあっても、表現する気持ちや相手に伝えることの大切さを学び、これからの学校生活でもっと英語を勉強し、海外の人とコミュニケーションで必要な語学力を身に付けたいと思いました。そして、異文化に触れ、台湾の歴史を学ぶことで日本との違いを知り、その違いを認めることの大切さも学びました。この経験を活かして国際交流のよさを伝えていきたいと思っています。

僕たちの海外派遣のために、事前の準備や引率をしてくださった方々やホームビジットでお世話になった陳さん家族には感謝の気持ちでいっぱいです。



引率の先生方

アメリカ班

おつなもDon't be shy!

団長 松山市立湯山中学校 校長 日野 弘子
Don't be shy! これが合言葉だった。個人差や場面差はあったかもしれないが、子どもたちはその目標に向けて頑張っていたと感じる。そして、欧米を一度も訪れたことがなく、ALTさんとも日本語で話してきた私にとって貴重な体験だった。子どもたちには及ばないが、Don't be shy! を私も実践してみた。

一つは、ウェルカムパーティーでの挨拶をメモを見ないで行ったこと。ちよつと無謀だったように、いくつかの単語を忘れてしまったが、良い経験だった。もう一つは、日本語を話さない方にドキドキしながら話しかけることを何度か試みたこと。例えば、姉妹都市協会のグロリアさんに、「書店で『ami Malala』を見つけてうれしくなった。日本の私の学校にも『わたしはマララ』がある。」と伝えたくて、どうやら大体は通じたらしく、うれしかった。

それにしても、この事業に参加しなければ、まず出会うことなかった人たちが一杯代表団：12の学校から集まった派遣生、引率の野本先生、河野先生、MIGのサニーさん、コンダクターの玉井さん...をはじめ、サクラメント姉妹都市協会の方々、ホストファミリー、現地スタッフの人々、数え切れないくらいたくさんの方々にお世話になった。そんな出会いに感謝し、何歳になっても、Don't be shy! の気持ちで挑戦し続けていきたいものだ。それは、若々しく生きることにもつながると思う。

I hope that these young students can be a part of the bridge between not only Sacramento and Matsuyama, but also America and Japan in the future. (1)にみる若く生徒たちが、将来、サクラメントと松山はもろもろアメリカと日本の架け橋になりますように。拙い英語での挨拶の一節に、そんなことを述べた。この派遣は16人の子もたちにとって国際人として生きるスタートのはず。花開き実を結ぶことを願っている。



ウェルカムパーティーでドラえもん紹介

Experience is the best teacher.

松山市立南中学校 教諭 野本 浩一

「物事を多面的に見なさい。両親や教師などから、時々言われる言葉です。そして、そうしようと努めてみる。でもそれは「経験がない」と意外に難しい。

今回の派遣中、ある英語のことわざが思い浮かびました。「Experience is the best teacher.」経験は最高の教師である。私が中学生の頃、英語の教科書に載っていたものです。

大きなジュースカップ、日常語としての英語の派遣された中学生達にとって、異国で見るもの、聞くもの、その殆どがとて新鮮だったこととしよう。

そして、「夢」「現実」という時期を経て、「経験」として客観的に認識できるようになった時、今回の経験は「最高の教師」となって働き始めることとしよう。

それは、教師である自分にも当てはまること。生徒を引率しての渡航は、今回が初めてでした。「Experience is the best teacher.」また一つ物事を多面的に見る教師になれたように思います。



最後に、この機会を与えてくださった全ての方々、本後にお世話になった全ての方々、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

アメリカ再訪

松山市立湯山中学校 教諭 河野 理佳

「Hello!」幼少時、花見に行った松山城で偶然出会ったサクラメントの方に、勇気をふりしほって話しかけました。それは、当時の私が知っている唯一の英語でした。そして、そのたった一言が、後に英語教師となる今の自分へとつながっていききました。アメリカに行きたいという夢が実際に叶ったのは16歳の夏でしたが、見る物、聞く物、出会う人、すべてに感動したその特別な夏は、同時に、私にとってアメリカを「上書きできない国」にしていったような気がします。

時を経て、今回引率という立場でアメリカ再訪の機会をいただきました。事前研修で初めて出会った派遣生の自己紹介を聞きながら、その期待に胸を膨らませる姿に、どこか懐かしさを感じました。短い準備期間でしたが、生徒達は「ウェルカムパーティー」に向け、松山紹介を盛り込んだ英語劇「坊っちゃん」の練習に熱心に取り組んでいました。シナリオから自分達で考えたオリジナル劇は、渡航後も直前まで練習に励み、松山の良さを知って頂く素晴らしいものになりました。

11日間の滞在中、同行して下さったSUNNYさんの「靴すかしがらない。失敗を恐れない」という言葉をキーワードに、生徒たちは何事にもチャレンジ精神を持って積極的に取り組みました。アメリカの歴史や最先端技術に触れられたことはもちろん、今までの人生で一番楽しかった「満面の笑みで語ったホームステイ先の新しい家族との出会いは、生徒にとって何よりの貴重な経験となったことと思います。

世界は広いと言われますが、生徒達にとってこの夏の経験は世界を近くするものであったと思います。日常の折に触れ、16時間前の時間帯を暮らす人びとに思いを寄せることでしよう。いつか、点と点がつながり、未来にまでつながったときに、「今回の派遣がスタートだった」と言う生徒がいつか、アメリカ訪問の思い出を久しぶりに更新したいと思います。



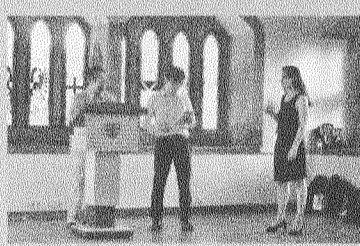
ドイツ班

複雑な思いを胸に...

松山市立垣生中学校 校長 一色 常道

7月17日、一学期の終業式を終え、余命いくばくもない父の家にドイツへの出発のあいさつに行きました。約二か月前、団長としてドイツへ行くことになったことを報告した時は、満面の笑みを浮かべて名刺をことごとく喜んでくれた父でしたが、はたして私が帰るまで無事でいてくれるかどうか。そんな私の不安を察した父は「帰って来るまでは頑張るから。楽しんで、責任を果たしておいで。」と誓って見送ってくれました。

関西空港から約11時間をかけてドイツのフランクフルト空港へ。無事に到着。大型バスでフランクフルトまで移動。高層道路から見える風景は日本と変わらないと思った瞬間、スプレーで丁寧に描かれた落書きが目につきました。日本とドイツの文化の違いでしょうか？その落書きはフライブルクの町並みや文化財にまで、至る所に芸術的に描かれています。滞在した10日間、美しく壮大な風景に接しながら、ホストファミリーの方々ははじめ、様々な方々と触れ合い、親交を深めることができました。優しく



て思いやりがあり、誠実で礼儀正しい。日本人と同様に、善い人ばかりでした。16名の派遣生は猛暑の中、ホストファミリーの方々と親交を深め、研修に励み、様々な場面で立派な姿勢や態度を見せてくれました。本当によく頑張ってくれました。「苦労さん、無事に帰ってよかったですね」と迎えてくれた父。数日後に旅立ちました。

暑い・暑い・暑い

松山市立北中学校 教諭 土居原 歩

「暑い夏今年も記録的猛暑のヨーロッパだった。連日最高気温が34度で澄み切った青い空。避暑に来るつもりが、生徒たちの熱中症の心配をすることになる」とは、暑さに無防備のドイツには冷房施設がほとんどなかったが、冷房が苦手な私にとっては最高の環境だった。関西空港に降り立ち騒々しい蝉の声を聞いた時、そういえばヨーロッパでは蝉が鳴いていなかったことに気が付き、日本の暑さを痛感した。全員無事帰国に感謝！

「暑い夏今年も記録的猛暑のヨーロッパだった。連日最高気温が34度で澄み切った青い空。避暑に来るつもりが、生徒たちの熱中症の心配をすることになる」とは、暑さに無防備のドイツには冷房施設がほとんどなかったが、冷房が苦手な私にとっては最高の環境だった。関西空港に降り立ち騒々しい蝉の声を聞いた時、そういえばヨーロッパでは蝉が鳴いていなかったことに気が付き、日本の暑さを痛感した。全員無事帰国に感謝！

「暑い夏今年も記録的猛暑のヨーロッパだった。連日最高気温が34度で澄み切った青い空。避暑に来るつもりが、生徒たちの熱中症の心配をすることになる」とは、暑さに無防備のドイツには冷房施設がほとんどなかったが、冷房が苦手な私にとっては最高の環境だった。関西空港に降り立ち騒々しい蝉の声を聞いた時、そういえばヨーロッパでは蝉が鳴いていなかったことに気が付き、日本の暑さを痛感した。全員無事帰国に感謝！

「暑い夏今年も記録的猛暑のヨーロッパだった。連日最高気温が34度で澄み切った青い空。避暑に来るつもりが、生徒たちの熱中症の心配をすることになる」とは、暑さに無防備のドイツには冷房施設がほとんどなかったが、冷房が苦手な私にとっては最高の環境だった。関西空港に降り立ち騒々しい蝉の声を聞いた時、そういえばヨーロッパでは蝉が鳴いていなかったことに気が付き、日本の暑さを痛感した。全員無事帰国に感謝！



「私の原点」

松山市立城西中学校 教諭 小笠原 由衣

中学2年生の夏、私はまつやま中学生海外派遣生としてアメリカへ行かせていただいた。言葉の壁に何度かぶつかり、期待していたホームステイはちょっと苦しい思い出になったが、それでも異なる文化の人と気持ちが通じ合うことができたと感じる瞬間もあり、言葉では言い表せないほどの満足感でいっぱいだった。2週間とい

う短い派遣期間であったが、14歳の少女にとり、世界中の人の心と心を結ぶことのできる「言語」の魅力を感じさせるには十分な期間だった。高校、大学ではESLに所属し、英語弁論大会に出場することになった。中学生の時に抱いた夢は、その後、通訳者、翻訳家、外交官...とさまざまな道に進むことになった。言語にかかわる仕事を通して国際人になりたいという思いはゆるがなかった。現在、私は英語教諭として日々奔走しているが、15年前の海外派遣事業が私の原点である。



フライブルク大学にて

「暑い夏今年も記録的猛暑のヨーロッパだった。連日最高気温が34度で澄み切った青い空。避暑に来るつもりが、生徒たちの熱中症の心配をすることになる」とは、暑さに無防備のドイツには冷房施設がほとんどなかったが、冷房が苦手な私にとっては最高の環境だった。関西空港に降り立ち騒々しい蝉の声を聞いた時、そういえばヨーロッパでは蝉が鳴いていなかったことに気が付き、日本の暑さを痛感した。全員無事帰国に感謝！

台湾班

台湾国際交流を通して

松山市立桑原中学校 教諭 石崎 有一

海外へ行くのが初めてで、生徒と共に緊張しながら、事前研修に臨み迎えた7月24日。飛行機に乗り、空港に降り立ち、ホテルに着いたとき、周りから聞こえる言語が中国語であったり、英語であったりして、海外に来たのだと実感しました。

3日目はホームビジット、4日目は介壽國民中学校との交流会が行われました。台湾流の迎えを受け、交流を行いました。特に介壽國民中学校との交流で、中学生が自分の意見をしっかりと話し、我々をリードしてくれました。さらにその後の交流ゲームでは、リーダー格の生徒たちが全体を見て、堂々とした仕切りで、ゲームを行いました。その姿を見て、積極的に行動することの大切さ、コミュニケーションをとることの大切さを学びました。

また、滞在中、事前研修で学んだ中国語をどのように試してみよう、自分の英語が通じるのか試



台北市にあるからくり時計

そして、台湾へ出発。天候にも恵まれ、様々な体験をしながら、歴史や文化に触れることができました。台湾で「からくり時計」や「松山車站松山駅」という文字を見た時は感動しました。また、現地の人々の温かさを感じる場面も多くありました。ホームビジットで派遣生を受け入れてくださった家族の方々、中学校での交流、それぞれ短い時間ではありましたが、温かく迎えてくださりとても感謝しています。ホームビジットを終え、帰ってきた時の9名の子どもの笑顔がそれらを物語っていました。このホームビジットで子どもたちの成長を感じました。海外派遣を通して、さらに成長することを楽しみにしています。

私も子どもたちとともに学ぶことができ、実りのある研修となりました。この事業に携わってくださったスタッフの方々に感謝します。ただひとつ、心残りのあることは、自分の話す台湾語が全く通じなかったことです。これからは勉強し、また、台湾へ行った時には、言葉を通じてもっと多くの人と交流をしたいです。

松山市立雄新中学校 養護教諭 砂野 美和
当初 韓国の平澤市に行く予定だった海外派遣。韓国好きの私は、平澤市に行くのをとても楽しみにしていました。しかし、事情で韓国から台湾へ。最初は、正直、「平澤市に行きたかったなあ。」と、残念な気持ちがありました。けれども、事前研修で台湾について学んだりしているうちに「台湾のことをもっと知りたい」と、楽しみながら準備になりました。

「台湾へ」



してみようと積極的に話しかけている生徒を見て、「必ずことによって学ぶ経験の積み重ねの大切さを感じました。今回の経験を生かし、今後の学習につなげてほしいと思います。」
今回の滞在を通して、我々が、楽しく意義ある活動ができたのは、現地ガイドの岡部さんを始め、多くの方々の支えがあったからだと思います。今回研修を通して学んだことを今後の生活に生かしていきたいと思えます。引率教師の一人として参加できたことに、またこの事業に携わっていたことに感謝の意を表します。

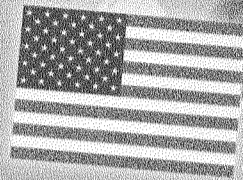
姉妹・友好交流都市での滞在プログラムを紹介!

アメリカ・サクラメント市

サクラメント市では、州議事堂や市庁舎を訪問しました。市庁舎の裏庭にあるサクラメントの姉妹都市の指標を見つけた派遣生は感慨一入でした。州議事堂はホワイトハウスと似た建物で厳かな雰囲気でした。

USA

プログラムのハイライトはウェルカムパーティーでの派遣生の出し物。今年はクイズ、ゲーム、英語劇などでホストファミリーと交流し、盛会裏に終わりました。



ドイツ・フライブルク市

フライブルク市の研修では、街の歴史を学び、歴史ある街並み(実は、第二次大戦による破壊を経て、戦後再建されています)を人々がどんな風にして守っているかを学びました。また、環境政策先進地でもある

GERMANY

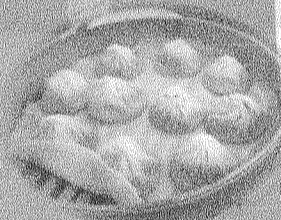
この街で、ホームステイを通して人々の生活を実感し、環境学習では「自分たちにもできること」を考えました。同世代の学校生活を垣間見ることができ、その違いに目を丸くしました。

台湾・台北市

今年度は派遣先が韓国から台湾へと急遽変更になりましたが、事前研修で学んだ知識を、派遣中はいろいろな場面で生かすことができました。特に、介壽国民中学校での交流では、英語・中国語・筆談を交えながら、同年代の生徒たちとおしゃべりやゲームを通して親睦を深めました。不安と

TAIWAN

緊張を抱えて向かったホームビジット先でも、短い時間でしたがみんな一段と成長して帰ってきたような気がしました。そこに笑顔があれば、たとえ言葉の壁があったとしても、みな同じ地球人なんだな、ということを改めて感じました。



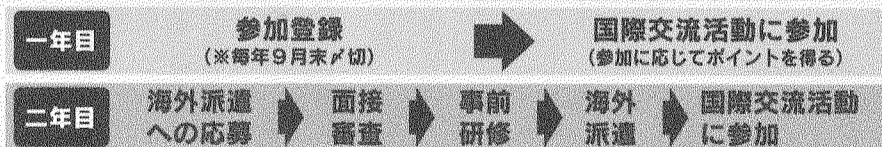
中学生チャレンジプロジェクトとは?



①プロジェクトに参加できるのは

- ★松山市内に住んでいる、中学1年生、2年生
- ★広く世界の国々について興味があり、地域での国際交流活動に参加する意欲のある人(派遣生になるにはプロジェクトへの参加が必要です)

②プロジェクトの流れ



③ポイント対象となる国際交流活動例

- ・地球人まつり
- ・まつやま中学生海外派遣報告会
- ・MIC職場体験
- ・「のぞいてみよう!国際協力の世界!」
- ・「外国語deおしゃべり」(ジュニア編)
- ・ホームステイ受入 など

4ポイント以上ためると応募可能



まつやま国際交流センターってどんなところ?

まつやま国際交流センターは、Matsuyama International Centerの頭文字をとってMIC(ミック)の愛称で親しまれています。松山で暮らす人たちが人種・国籍・宗教などにかかわらず、仲良く快適に暮らせるよう、さまざまなサービスを行っています。

①「私も何かしてみたい!」という皆さんへ

- ☆ボランティアのための語学講座
- ☆ホストファミリーバンク
- ☆MMF (My Matsuyama Family)
- ☆外国人オタスケマン

②イベントを通して国際交流を体験してみよう!

- ☆地球人まつり (1月)
- ☆国際交流サロン (随時)
- ☆地域での交流活動のサポート (随時)

③外国人市民の皆さんへ

- ☆窓口相談サービス
- ☆外国語としての日本語教室
- ☆自転車の貸し出し

詳しいことが知りたい人はMICへ!



国際交流情報が満載のMICメールニュースを週に1回配信しています。配信希望の方はmail@mic.ehime.jpまでメールを送ってください。

お問い合わせ
まつやま国際交流センター(MIC)

〒790-0003 松山市三番町6丁目4-20 コムズ1階
TEL:089-943-2025 FAX:089-931-2041
E-mail:mail@mic.ehime.jp

MIC Facebookはこちら

